

2019年6月28日に奥羽大学第3講義棟にて松丸悠一先生をお招きし、「総義歯治療をマネジメントするためのテクニックとデンチャーフォーム」を演題に、100名近く同窓生の先生方が参加されるなか、講演をして頂いた。

6月27日には、夜7時から前夜祭が行われ、松丸悠一先生を囲み、美味しい食事とお酒をいただきながら、先生の義歯についてのセンシティブなテクニックなお話を聞きながら楽しい時間が過ぎていった。

松丸悠一先生は、臨床における総義歯治療が適応となった無歯顎患者を対象に、高い機能回復と、どのような治療方法が患者さんに受け入れられるか？について日々思索しており、その中でも、義歯が機能時にも外れない、痛みが無いこと、違和感が少ないことといった単純な事実と時間軸を利用した顎位の確認、術者・患者間における適切なコミュニケーションの方法など、そしてこのポイントを、より明確、確実に得るために、治療用義歯や複製義歯を使用しながら患者固有にマッチングしたクオリティーの高い本義歯を製作する術式を確立しています。

今回の講演内容は、本総義歯の製作に重要な解剖学的ランドマークについてのお話から始まり、フレームカットバックトレイを用いたアルジネートによる外形印象方法、その時、無歯顎印象に明確に取り込まなければいけない部位、そして、的確に印象採得された模型上で治療用義歯を製作する方法や今まで使用していた旧義歯を利用し、口腔内でレジンを追加、削合し、レトロモラーパット部の辺縁封鎖の方法や吸着義歯を失敗しないための義歯外形線、辺縁形態の口腔内での合わせかた、人工歯配列位置の注意事項など、様々なケースで、患者さん1人1人異なった口腔内であわせていく方法をレクチャーしてもらい、口腔内で綿密に製作された義歯を利用したコピーデンチャーのダイナミック印象方法、ティッシュコンディショナーテクニックの勘どころなど、そして、綿密に製作されたコピーデンチャーを本義歯製作にどうやってとりこんでいくかと言う、私達が総義歯臨床で日々悩んでいることについて事細かくお話していただいた。

この講演を聞いて、これからの高齢化社会における義歯の重要性を再確認出来たと共に、今現在の義歯製作における新しいテクニックと従来のテクニックの融合について、深い知識を得ることが出来た。また、参加された先生方は、松丸先生の話に熱心に耳を傾け、多くの質疑応答がなされ、明日への臨床に活かせる有意義な卒後研修会となった。